

ふいるさとのうた

剣淵文化協会俳句部会



風花や爪研ぐ背の細りたる

仲町 玉野 研一

踏み出せず 一步重たき雪の朝

西原町 児玉 久美子

戦場をぐくりめげし眉に雪

緑町 池田 良子

会ひたくて会ひにも行けず師走かな

西岡町 渋谷 みさ子

ナンプトはまりし日日や十二月

南桜町 宮腰 幸子

古きもの捨て余生の年暮る

西町 金澤 頼子

ゆるやかに夕陽よまゐる十二月

元町 印牧 安子

冬三つら寝息すこちかひまかな

元町 西崎 弘子

永らへて冬至南瓜を一人食ふ

仲町 坂部 和子

数え日や特急の窓客まはら

仲町 梅基 文子

裸木へ薄き日の差す吾が身にも

旭町 大河 博子

とじもる家の窓打つみぞれかな

西町 岸波 君江

台ふきん干して深夜のゆず湯かな

西町 杉浦 とし枝

孫のはしゃぐ高級ホテル冬の旅

藤本町 鈴木 ゆき子

十年の日々を書き終え初春に

西岡町 高瀬 久美子

買ったての手帳かな文字年詰まる

東町 高橋 世津子

愚痴ひとつ零して湯に入る年の暮れ

西町 文梨 清子

来しが雪友と健やか確かむる

仲町 芳賀 星子